

申告会場は初日から混雑した(18日、新潟市中央区の朱鷺メッセ)

マイナンバーカードやカードリーダーが必要になる

パソコンを使って確定申告書の作成を体験する三浦市長(右)

のが一番。普及していけば効果はある」と話していた。

8日に実施された今年は

余剰食品 困窮者に提供



「コメにポテトチップス、みそ汁などのインスタント食品」。新潟市中央区の勤労福祉会館4階の一室には、所狭しと食料が入った段ボール箱や袋が積まれている。NPO法人「フードバンクにいがた」

の倉庫だ。13日は、生協が運営する就労支援事業所で相談員を務める真柄渉さん(39)が乾パン約100缶と、珍しく入手できたというホウレンソウなどを受け取り、「いつもありがとございます」と笑顔で事業所に持ち帰った。

「フードバンクにいがたは、売れ残るなどして賞味期限が来る前に廃棄されてしまう食



①食品を引き渡すフードバンクにいがたのスタッフ(左)(13日、新潟市中央区で) ②フードバンクにいがたのメンバーら(団体提供)

フードバンクにいがた(新潟市)



「コメどころでも食事に苦労している人がいる」ことを知った県労働者福祉協議会や生協の有志が結成した。当初は約15人で活動していたが、現

品を、企業や個人から集めて日々の食事に困る人に提供している。今年度は、児童福祉施設など県内約130の団体を通して食品を渡している。求職中の生活困窮者に食材を渡している真柄さんは「届けの際に話をすることで、信頼関係も築けるようになった」と話す。

団体は2013年に設立。

在は30人まで増えた。昨年1月からスタッフに加わった岩橋千穂さん(28)は、高校を中退してから約8年間引きこもりだったが、社会に出ようとして働き始めた。「誰かの役に立てるだけでなく、自分も社会参加できている」と声を弾ませる。

「フードバンクにいがた」から寄付された食料品を回収する「フードドライブ」活動の効果もあって、寄付量は増え続けている。18年度は30トを超える見込みで、13年度の3・8トの約8倍にのぼる。

一方、運営する人と資金の確保は課題で、各地のポストに行けるスタッフが足りず、回収できないこともあるという。対策として、18年10月には三条市と柏崎市に支部を設立し、地域の中で食材を回す取り組みも始めた。副理事長の間英輔さん(60)は「食品ロスを減らしたい」と話す。

団体設立当初から携わっている専務理事の山田太郎さん(66)は「迅速に食品が届けられる体制を整えたい」と意気込んだ。(沼田良宗)

生活保護世帯 年々増加

県福祉保健課によると、県内の生活保護受給世帯は年々増加傾向にある。2010年度は月平均1万3096世帯(1万7823人)だったが、17年度(速報値)は1万6180世帯(2万979人)となっている。

フードバンクにいがたは昨年11月から、児童扶養手当を受給するひとり親家庭などに米を配達する、民間の「にいがたお米プロジェクト」にも協力。月1回、応募から選ばれた100世帯を対象に、毎月5kgの米やインスタント食品を届けている。

団体では、賞味期限が2か月程度以上あり、未開封で常温保存が可能な食品の寄付を募っている。事務局の真木英明さん(71)は「すぐに食べられる加工食品や調味料が不足している」と話す。

持ち込みの場合、平日午前10時～午後4時に団体事務所(新潟市中央区新光町6の2)へ。郵送も受け付けている。問い合わせは同事務所(025・384・4466)。

県内市況 品目の後の丸数字などは量目

品目	新潟					長岡		上越		三条		柏崎	
	青	果	キ	果	果	果	果	果	果	果	果	果	果
ダイコン	1296	324	1512	324	1404	324	1404	432	2160	864			

【魚類】

品目	新潟漁協	キロ	税別
ナン	7300	1800	—
バン	—	—	—
エビ	—	—	—
ズワイ	—	—	—
ガニ	—	—	—
ズコ	—	—	—
カレイ	—	—	—
マコ	—	—	—
カレイ	—	—	—
ヤナギ	—	—	—

【秀逸】

4か2かそれ

越路時 雪国の本の気 藤井棋士負け 真っ黒け役所 言い訳はしつ

クの3種目を叩 かった。